

令和4年度（第1回）鳥取市国民健康保険運営協議会議事概要

1. 日時 令和4年8月18日（木）～8月29日（月）

2. 会場 書面開催

3. 出席者

委員 中山会長、佐々木委員、竹内委員、近藤委員、西村委員、
水田委員、林浩委員、木下委員、池田委員、高須委員、尾崎委員、
今宮委員、湯口委員、森田委員、紅松委員

4. 会議状況

(1) 議題1：令和3年度鳥取市国民健康保険費特別会計歳入・歳出決算見込みについて

賛成：15

反対：0

(委員からの意見等)

- ・一般被保険者の健康保険料が減ってきているのは、後期高齢者の方へ移行が多くなっているのでしょうか。また、コロナ禍の中、生活苦のため納入できない人が増えたためでしょうか。

(鳥取市) 保険年金課

令和3年度の保険料収入が前年度と比べて減となったのは、後期高齢者医療制度への移行などによる被保険者の減少や新型コロナウイルス感染症に伴う保険料の減免による影響、鳥取県が算定する国保事業納付金の減額等に伴い、必要となる歳出額が減ったことにより保険料率の引き下げを行ったことが主な要因です。
(参考：資料1のP4被保険者増減事由内訳、資料3のP1国保料料率改定の概要)

(委員からの意見等)

- ・2億1,363万円の黒字となったとの事、関係者職員のご努力に敬意を表します。2点質問ですが、国庫補助金はなぜ減額となったのですか。また、県からの特別交付金については、どんなことが評価されているのですか。

(鳥取市) 保険年金課

国庫支出金が減額となったのは、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う保険料の減免に対する財政支援の減少によるものです。令和2年度と比べ令和3年度の減免額は5,142万円の減となり、国庫支出金も減少したものです。

県特別調整交付金のうち、市町村の努力へのインセンティブ交付金である保険者努力支援制度では、糖尿病に対する重症化予防や加入者の適正受診・適正服薬を促す取組、データヘルス計画の実施状況などが評価されています。

(委員からの意見等)

- ・ 収納率が上昇できたのはなぜですか。保険料の引き下げが大きな要因となっているのでしょうか。
- ・ 保険料収納率が年々上がっており、取組の成果がでていていると思う。

(鳥取市) 収納推進課

ご指摘のとおり、保険料率の引き下げは、相対的に滞納者及び滞納金が減少するため、限られた人員での滞納整理の効率が上がり、収納率が上昇する一つの要因となっています。また、コロナ禍による減免制度の適用により、納付困難な滞納金が減少したことも収納率を向上させています。併せて、資料4の事業計画P10以降に記載しているとおおり、滞納の未然防止や、滞納者対策について様々な取組を継続して行っていることが、収納率向上につながっています。

(2) 令和4年度国民健康保険事業の状況について

賛成： 15

反対： 0

(委員からの意見等)

- ・ 議題1、議題2、議題3、それぞれの資料で記載内容の重複があるように思われます。議題2については、議題3の状況報告と思われ、併せてひとつの議題とすれば良いのではと思料します。

(鳥取市) 保険年金課

いただきましたご意見も参考にさせていただき、議題について検討したいと考えます。

(3) 令和4年度国民健康保険事業計画について

賛成： 15

反対： 0

(委員からの意見等)

- ・国に準拠するだけでなく、少しずつでも前進できる施策ができればよいと思います。

(鳥取市) 保険年金課

国民健康保険制度では、法令等に従い、保険給付をはじめ、被保険者の健康の保持増進のための保健事業などを行っています。今後も被保険者の皆様が将来にわたり安心して医療が受けられる制度となるよう運営してまいります。

(委員からの意見等)

- ・被保険者の高齢化、(被保険者)数の減少が見込まれる現状において、令和4年度については、基金の活用等で歳入確保ができる等の理由からの判断で保険料率の据え置きに異議はありません。将来のことを考えて、抜本的な見直しについて議論していく必要を感じました。
- ・厳しい状況を乗り越え、平成23年度以降は黒字で推移し、現在は安定的な運営を堅持されておられるとのことですが、昨今は高齢者の加入割合の増加などにより、公的医療保険制度全体で運営が厳しくなっています。

また、コロナ禍による受診控えで令和元年度・令和2年度の給付費総額は減少していますが、医療費が増加するなかでの、3年後・5年後・10年後など、中長期的な国保財政の見通しをお示しいただきたいです。

(鳥取市) 保険年金課

平成30年度の国保改革により、国民健康保険の運営主体がこれまでの市町村保険者から市町村と都道府県の共同保険者となり都道府県が財政運営の責任主体となりました。

新しい制度では、国からの財政支援の拡充や国保の財政運営が市町村単位から県単位に拡大することにより国民健康保険の財政基盤を安定させることで、高額な医療費の発生などの多様なリスクを県全体で分散させる仕組みとなりました。これにより各市町村が保険給付に必要な費用は、県から交付され安定した運営が可能となっています。

現在進めている国保改革は、安定的な財政運営と効率的な事務運営の実現を目指しており、鳥取県内においても長期的に適切な収支バランスを把握するため、事務の広域化・標準化や保険料水準の統一を視野に入れた議論が進められているところです。国民健康保険が将来にわたって持続可能で安心して医療を受けていただける制度となるよう取り組みを進めてまいります。

(4) データヘルス計画の進捗状況について

(委員からの意見等)

- ・糖尿病予防は、かかりつけ医で定期的に検査を受けていれば重症化にはなりにくいと思います。
- ・ジェネリック医薬品利用は、私も利用させてもらっていますが、薬代が以前より安くなって助かっています。
- ・災害に等しいコロナ禍で、データヘルス計画の実現に向け、オンライン面接等計画の推進に工夫されています。
- ・あらゆる努力に敬意を表します。
- ・コロナの影響が大きく計画通りに進めることが難しい状況であったと推察される内容でした。いろいろな啓発事業も進められているようですが、周知徹底は大変です。極端な考えかもしれませんが、若い世代（中・高・大学生など）に知らせ、そこから発信してもらうなどはできないだろうかと思いました。
- ・糖尿病性腎症重症化予防事業について、R2年度より検査値の改善が下がっていることが気になります。取り組みが引き続きであれば、改善が見込めない可能性があるのではないのでしょうか。医療費の1、2位が糖尿病と腎不全が占めていることをみると、前年度の継続に何か加えることが必要のように思いました。
- ・国保事業を安定させ、継続するための重要な課題と理解しております。増々の推進を期待しております。

(鳥取市) 医療費適正化推進室

啓発・広報事業については、若い世代の興味を引くような内容や発信方法の工夫、また、商業施設や地域イベントでの実施を増やすなどして、様々な世代に関心を持っていただけるよう努めてまいります。

また、糖尿病性腎症重症化予防事業の改善率については、6カ月間の保健指導プログラム実施後の数値となりますが、ご意見にあるとおり減少傾向であることは課題であり、今年度の進捗状況を注視しながら、次年度へ向けて事業検証したいと考えています。令和3年度の参加者に対しては、本年度、市の看護師等によ

るフォローアップ事業を1年間実施しますので、引き続き、改善に向けての支援を行ってまいります。